

Weekly Report

2023-2024



創 立 1969年4月14日
承 認 1969年4月23日
チャーターナイト 1969年11月9日
発 行 I T・広報委員会

世界に希望を生み出そう

会長：磯崎裕騎 / 幹事：吉岡哲哉 / 副会長：村上義憲 / 会長エレクト：江島繁夫 / 副幹事：岩本達也 / S.A.A: 堀井実

今週のプログラム		第2588回	2月16日
客話：SANNさん・元高松西RC会員			
担当者	国際奉仕委員会	例会場	JRホテルクレメント高松

先週のプログラム		第2587回	2月9日
客話：「防災≡まちづくり ～中核市未来高松への提言～」花崎哲司様			
担当者	危機管理委員会	例会場	JRホテルクレメント高松



磯崎会長挨拶

皆さん、こんにちは
今朝起きると気持ちの良いお天気でした。
今週は天候が不順でしたが良い天気でごストの花崎先生をお迎えすることができて良かったです。後ほどお話を頂きたいと思います。
今週火曜に行われた55周年記念事業のFSMと先週のグリーンロータリーとの合同例会には26人の会員が参加して頂き機運が盛り上がりつつ来たと思います。この調子で盛り上がりつついきましょう。
さて皆さんは冒険遺伝子と言うものをご存知ですか？一部のみに備わるチャレンジングな性格をもたらす遺伝子のことです。日経新聞の裏面に私の履歴書と言う記事があります。今月は医師で登山家の今井道子さんが連載しています。彼女などは間違いなく冒険遺伝子の持ち主だと思います。マーケティングの世界にもキャズム理論と言うものがあり僅か数パーセントがイノベーターで続く10パーセント程度がアーリーアダプター、その後多くが続くとされています。
ロータリーの会員も皆さんイノベーターと思います。イノベーター同士の中にいると自分がイノベーターだと思わなくなっていることを先日、経験しました。皆様から社会をリードして行き続けて頂きたいと思います。
本日もよろしくお願ひします。

吉岡幹事報告

- 次週理事会です。
- ロータリーの友、寄付金領収書(申告用)がキャビネットに入れてあります。

ニコニコBOX	
お米がとどきました。ありがとうございます。	入谷
早退	1件
合計 2件	
本日 の 合 計	3,500円
2023-2024 年度 累 計	555,000円

出席報告		出席委員長：低田陽介	
会 員 数 /	42名	出席規準数 /	40名
出席者数 /	16名	欠 席 者 数 /	24名
出席率 /	40.00%	ビ ジ タ ー /	0名
最終出席率 /	1月26日	53.85%	→ 64.10%

メイクアップ

2月8日 高松RC 藤田 江島 岡田 泉谷

2月16日 今日は何の日	今日生まれの有名な
エコの日/ニコライ祭/岡山西大寺会陽裸祭	1976年 オダギリジョー 1931年 高倉健
1474年 一休和尚が大徳寺の住職に	1975年 相川七瀬 1838年 大隈重信
1883年 東京気象台が日本初の天気図を作成	1945年 逸見政孝 1222年 日蓮
誕生花	カナリーグラス、花言葉は“辛抱強さ”
誕生石	トパーズ(topaz)、宝石言葉は“希望”

奉仕の理想

奉仕の理想に集いし友よ
御国に捧げん我らの業
望は世界の久遠の平和
めぐる歯車いや輝きて
永久に栄えよ 我等のロータリー




矢島ロータリークラブと友好縁組をして20年の時間が流れた。高松西ロータリークラブ創立55周年記念式典へのご案内に磯崎会長以下、木内実行委員長、村上実行副委員長をはじめ、20年前に会長、幹事として矢島ロータリークラブと友好提携をした石川、島谷友好クラブ担当者と共に矢島ロータリークラブを訪問した。そして私は佐藤清圓矢島町元町長との関係から、友好提携へのきっかけを作った立場で同行させていただいた。今回の訪問のメンバーは偶然にも35周年事業を行なった石川元会長、40周年の私、45周年の木内元会長、50周年の村上元会長、55周年の磯崎会長が同行する旅となった。

2月11日(日)羽田を経由して秋田空港に到着した。マイクロバスが故障したということで、45人乗りの大型バスに訪問者8名が乗車する楽ちんの旅となった。懐かしい秋田の風景を眺めながら矢島町の歴史交流館を訪ねた。三浦秀人会長、藤原和信会員(由利本荘フットパス協会会長)のお出迎えを受け、詳しくご案内をいただいた。歴史交流館には増田昌三元市長、佐藤清圓元町長との間で結ばれた友好都市協定書も掲示されていた。生駒家の菩提寺である龍源寺の参拝のあと、宿泊先のフォレスト鳥海に移動した。フォレスト鳥海は20年前に友好提携を結んだ思い出の地でもある。夕刻から矢島ロータリークラブとの交流会が開催され、矢島クラブ会員5名(会員総数6名)と奥様4名が参加された。我がクラブからの参加者8名と合わせ17名の大宴会となり、長い交流の歴史を思い出しながらワイワイガヤガヤ大いに盛り上がり、楽しい楽しい時間が過ぎ去った。55周年記念式典には新たに2名が加わり、11名の参加を予定しているとのことをお聞きし、55周年式典の案内に秋田まで足を運んで良かったとの思いを参加者一同が共有した。

住谷幸伸 記



「好循環」を生み出す

ゴードン R. マッキナリー
2023-24年度 国際ロータリー(RI)会長

私は、世界中の皆さんがロータリーを通じてメンタルヘルスのための活動に取り組んでいることに、励まされています。ロータリー行動グループの一つ、メンタルヘルス・イニシアチブが実施したアンケート調査に1,000人以上の会員が回答。会員個人の幸福度を上げるため、ロータリーは何ができるか、意見を提示しています。

回答から浮き彫りになったのは、ロータリーの会員がより多くの親睦や連帯、対話、結束、つながりを求めていることです。同時に認められ、受け入れられ、仲間になりたいと感じています。さらに、より多くの奉仕の機会や、メンタルヘルスに関する講演や啓発、教育といったウェルネスのための活動の機会を求めています。

ロータリー会員は、メンタルヘルスへの着目を評価するだけでなく、それによってロータリーでの体験、自身の生活も向上すると考えています。興味深いのは、所属クラブに対して何か劇的に新しいことを求めているのではなく、身近なところで取り組めることをしたい、と感じていることです。例えば月に1回、例会で座る席を替え、それまで話したことのない会員と話す、というシンプルな試みによって、会員同士のつながりをさらに深める、といったことです。

活動に成果をもたらし、ロータリーへの入会を考えている人たちを引きつける方法を紹介しましょう。まず、クラブへの帰属意識を高めることの重要性を認識し、会員が新たに有意義なつながりを見つけるための機会をつくりましょう。公衆衛生の専門家は、孤独感の深まりを懸念しており、アメリカに至っては、公衆衛生局長官が「それは伝染病だ」と言明しています。共通の趣味や関心を土台とするグループやクラブを見つけることは、より強いつながりを築く有益な方法である、というのがメンタルヘルスの専門家の見解です。この見方はまさにロータリーにも当てはまります。ロータリーの会員が皆、地域社会へ積極的に参加すれば、私たちロータリーが持つこの強みを、地域社会は認識するということです。

そして、つながりを築く新たな方法を見つけた方は、そのストーリーを mindhealth@rotary.org までお送りください。あなたのアイデアが、他の会員にインスピレーションを与えるかもしれません。また、ロータリーショーケースに奉仕プロジェクトを投稿しましょう。

最後に、今回のようなアンケート調査の結果をクラブでシェアし、クラブでの体験を向上させ、会員の期待を満たすような独自のアイデアを考えていただきたいと思います。私たちが始めた旅は、メンタルヘルス以上の目的を持っています。ロータリーという素晴らしい組織の強みを最大限に生かすこと、そして自分は個人の幸福を心から大切にできるコミュニティーの一員であると、全ての会員に感じてもらえるよう支援していくことです。

皆さんが行う全てのことが、ロータリーでのつながりを強めます。このつながりとは、お互いのつながり、奉仕する相手とのつながりであり、これがメンタルヘルスの向上につながります。メンタルヘルスの向上のために行う全てのことが、こういったつながりを強めていくのです。この「好循環」を維持していきましょう。